

大和郡山城下町として大切にしたい建物50選

～杉原家住宅聞き取り調査の記録～



【建物概要】

建物名称：杉原家住宅

所在地：南鍛冶町

当初の用途：隠居所

現在の用途：住宅

建造時期：江戸中期後半

構造規模：木造

つし2階

(調査日：平成26年10月26日)

【建物現況と周辺状況】

南鍛冶町は本町から続く広い道路に面した一帯で本町の枝町として発展し、江戸時代は参勤交代が通り、奈良へと通ずる主要な位置にありました。戦後もお店が立ち並び賑やかであったが次第に店はたたまれ、壊されて駐車場になったところも多い。しかし、杉原邸を含め数軒の古い建物も残っていて歴史を感じる地域です。

【歴史的特徴と建築的特徴】

杉原邸は道路の北側に面し間口9.5間と広い。江戸時代に質屋を営んでいた「あこや」氏が隠居所として建てた為、商家に見られる指鴨居のような大きな部材は使われていません。数寄屋風の極めて細かい材で納められています。部屋の広さも6帖が一番広く、小ぶりの部屋が幾つもありお殿様が来られてお茶を飲まれたという茶室も残る。とおり庭から上がるつし二階は洋風の意匠に改修されていて見晴らしが良い。庭は吉野石を使い数寄屋風の建物に会うよう低く抑えられ静かな佇まいです。

【建物の歴史・暮らしの様子・所有者の思い】

隠居所であったがその後柳沢家の二代目郡山藩主の藩医として郡山に入った富永家が住むこととなる。明治からは富永家はこの家で病院を開いていたが、昭和の初めに東京に戻られ、昭和16年に杉原さんがこの家に住み始める。富永さんとはこの家を介して今も交流があり、家を守っておられることを感謝されているとのこと。隣にマンションが建ったとき取り壊しを勧められたが、この家が好きで住み心地が良いので壊す気は無かったとのこと。古い家は修理費が嵩むので、次の世代でどうなるかわからないが、郡山の歴史を刻むこの建物を残さなければいけないという思いで大切に住んでおられます。

